

エナガ

エナガに出会いました。久しぶりでした。2014年4月15日、13時45分頃と記録しておきます。天気予報では雨がくるというので、澄川森林での作業を少し早めに仕舞い、清掃事務所の駐車場に向けて尾根道を歩いていました。右手の蔓がらみの木々にカラ類の群れがいるのに気づきました。シジュウガラやコガラたちに混じてエナガがいるではありませんか。澄川の森にはもう12年、百回以上訪れていますが、エナガに出会ったのは初めてです。以前に支笏湖や積丹の森で出会ったことはありますが、澄川では今日まで出合っておりませんでした。絶滅危惧種ではないかと心配していたので嬉しいことでした。



エナガは森の妖精のようです。真綿で胴体を形作り、それに小さなくちばしと目を描き羽根と尾をとりつけたような按配です。雌雄の区別は外見からは出来ません。カラ類に混じて一緒に行動していることが多いのですが、それらの中でも一番チビに見えます。カラ類たちよりさらに枝先の虫や虫の卵を物色している気配で、枝先の葉にぶらさがって葉の裏を点検していたりします。体重が軽いことがよくわかるのです。とにかく愛くるしいのです。北海道のエナガは亜種でシマエナガが本名であると愛用の「北海道野鳥図鑑」(亜璃西社)に記されていますので、正しくはシマエナガと表記すべきでしょうかね。

カラ類ではない証拠に巣箱に入ってはくれません。スズメ目エナガ科です。巣は樹木の枝の上とか又の間とかにクモの巣を使って苔などをくっつけた出入り口の小さな押しつぶした徳利のような形をしていまして、簡単には見つけられない代物なのです。そんな巣の中でカラ類より多い7~8羽もの雛を育てるのですが、いかんせんか弱い小鳥なので、数が増えている気配のまったくないのが残念であります。分布は北海道を中心にして、南千島および本州北部と狭いのです。



今年は雪解けが遅く、森は樹木の根元以外では南斜面からは消えていきましたが、気温が上がり雪が腐ってざくざくと足がささりこむことがしばしばで、まだ30cmほどの深さはありませんでしたが、明日からは好天が続くとので予報なので駐車場は来週には使えると思われます。